

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年2月14日

**【四半期会計期間】** 第81期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

**【会社名】** 神田通信機株式会社

**【英訳名】** KANDA TSUSHINKI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 神部雅人

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区神田富山町24番地

**【電話番号】** (03)3252-7731(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 高橋昌弘

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区神田富山町24番地

**【電話番号】** (03)3252-7731(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 高橋昌弘

**【縦覧に供する場所】** 神田通信機株式会社 千葉支店  
(千葉県千葉市中央区登戸三丁目3番30号)

神田通信機株式会社 横浜支店  
(神奈川県横浜市中区本町二丁目15番地)

神田通信機株式会社 北関東支店  
(埼玉県さいたま市大宮区浅間町二丁目167番地)

神田通信機株式会社 大阪支店  
(大阪府吹田市江坂町一丁目23番5号)

神田通信機株式会社 名古屋支店  
(愛知県名古屋市千種区内山3丁目10番17号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第80期 第3四半期 連結累計期間	第81期 第3四半期 連結累計期間	第80期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	3,640,090	3,501,248	5,852,272
経常利益又は経常損失( ) (千円)	94,107	51,749	215,195
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 純損失( ) (千円)	105,474	62,966	151,791
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	59,473	20,220	188,318
純資産額 (千円)	3,311,704	3,538,953	3,559,497
総資産額 (千円)	6,136,879	6,202,100	6,582,432
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	131.54	78.54	189.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	54.0	57.1	54.1

回次	第80期 第3四半期 連結会計期間	第81期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	83.06	33.00

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、緩やかな回復が見られましたが、海外の政治情勢への懸念や地政学リスクの高まりなどもあり先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは、永年にわたり情報・通信・映像の事業で培った豊富な経験と情報・通信を統合した確かな技術力をもって、進化するネットワーク社会に適合したソリューションビジネスを展開してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は35億1百万円(前年同四半期比3.8%減)となり、営業損失は1億5百万円(前年同四半期は営業損失1億27百万円)、経常損失は51百万円(前年同四半期は経常損失94百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は62百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億5百万円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 建設事業

IPネットワークの提供で企業のネットワークインフラの設計・提案・構築とサポートサービスを行っており、大手・中堅企業の全国ネットワーク構築や地方自治体のネットワーク構築及びセキュリティ関連システム等のソリューション提案及び商業施設、ホテルやブランドショップ等への照明システムの拡販に積極的に注力いたしました。

以上の結果、当セグメントの完成工事高は29億75百万円(前年同四半期比2.5%増)、営業損失は81百万円(前年同四半期は営業損失1億39百万円)となりました。

#### 情報システム事業

自社ブランドパッケージソフトの開発と販売、一般企業や独立行政法人・社会福祉法人向け等のシステム開発及びセキュリティ関連ビジネスとハード、ソフトのサポートサービスを行っており、独立行政法人向け財務会計ソフト「見える会計」、社会福祉協議会向けソフト「こころ」等自社開発パッケージソフトの提案やセキュリティ関連システム提案等ソリューションビジネスを積極的に展開いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は4億75百万円(前年同四半期比28.6%減)となり、営業損失は54百万円(前年同四半期は営業損失36百万円)となりました。

#### 不動産賃貸事業

不動産の賃貸を事業としており、売上高は49百万円(前年同四半期比28.5%減)、営業利益は30百万円(前年同四半期比38.0%減)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は62億2百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億80百万円減少しました。これは主に、現金預金が増加し、受取手形・完成工事未収入金等が8億55百万円減少したこと等によります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は26億63百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億59百万円減少しました。これは主に、支払手形・工事未払金等が1億71百万円減少したこと等によります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は35億38百万円となり、前連結会計年度末と比較して200万円減少しました。これは主に、利益剰余金が1億3百万円減少し、その他有価証券評価差額金が78百万円増加したこと等によります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、研究開発は行われておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,685,000
計	2,685,000

(注) 平成29年6月29日開催の第80期定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は24,165,000株減少し、2,685,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	874,409	874,409	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は 100株であります。
計	874,409	874,409		

(注) 1. 平成29年6月29日開催の第80期定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合しております。これにより、発行済株式総数は7,869,682株減少し、874,409株となっております。  
 2. 平成29年5月15日開催の取締役会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月31日	7,869,682	874,409		1,310,825		328,000

(注) 平成29年6月29日開催の第80期定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合しております。これにより、発行済株式総数は7,869,682株減少し、874,409株となっております。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

(平成29年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 728,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,961,000	7,961	
単元未満株式	普通株式 55,091		
発行済株式総数	8,744,091		
総株主の議決権		7,961	

(注) 平成29年10月1日付で単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)及び株式併合(10株を1株に併合)を行っております。これにより当第3四半期会計期間末日現在の発行済株式総数は874,409株、一単元は100株となっております。

【自己株式等】

(平成29年9月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 神田通信機株式会社	東京都千代田区神田富山町 24番地	728,000		728,000	8.33
計		728,000		728,000	8.33

(注) 平成29年10月1日付で単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)及び株式併合(10株を1株に併合)を行っております。これにより当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、単元未満株式の取得分と合わせて72,915株となっております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	1,488,725	1,761,217
受取手形・完成工事未収入金等	1,629,321	1,773,870
未成工事支出金	171,797	439,143
仕掛品	44,240	35,822
その他のたな卸資産	4,005	5,907
その他	148,494	122,001
貸倒引当金	18,180	17,093
流動資産合計	3,468,405	3,120,868
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	348,254	332,700
土地	1,520,934	1,520,934
その他（純額）	12,457	11,646
有形固定資産合計	1,881,647	1,865,281
<b>無形固定資産</b>	8,340	8,340
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,037,698	1,050,503
その他	204,150	174,175
貸倒引当金	17,809	17,070
投資その他の資産合計	1,224,039	1,207,608
固定資産合計	3,114,027	3,081,231
資産合計	6,582,432	6,202,100



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	1,042,765	1 871,357
短期借入金	220,000	220,000
未払法人税等	62,113	8,857
賞与引当金	128,400	43,222
役員賞与引当金	16,060	3,000
受注工事損失引当金	7,866	-
その他	359,856	414,286
流動負債合計	1,837,062	1,560,724
固定負債		
リース債務	104,402	74,536
繰延税金負債	94,536	126,923
退職給付に係る負債	860,857	860,188
役員退職慰労引当金	77,833	22,037
その他	48,243	18,735
固定負債合計	1,185,872	1,102,422
負債合計	3,022,935	2,663,146
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,310,825	1,310,825
資本剰余金	1,087,084	1,087,084
利益剰余金	997,442	894,385
自己株式	130,368	131,042
株主資本合計	3,264,983	3,161,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	300,294	379,145
退職給付に係る調整累計額	5,780	1,445
その他の包括利益累計額合計	294,514	377,700
純資産合計	3,559,497	3,538,953
負債純資産合計	6,582,432	6,202,100

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	3,640,090	3,501,248
売上原価	2,746,339	2,606,871
売上総利益	893,750	894,376
販売費及び一般管理費	1,021,480	999,678
営業損失( )	127,730	105,301
営業外収益		
受取配当金	15,736	18,592
受取手数料	18,061	22,774
その他	14,831	15,105
営業外収益合計	48,629	56,472
営業外費用		
支払利息	2,442	2,502
貸倒引当金繰入額	11,523	-
その他	1,041	417
営業外費用合計	15,006	2,920
経常損失( )	94,107	51,749
税金等調整前四半期純損失( )	94,107	51,749
法人税、住民税及び事業税	11,367	11,216
法人税等合計	11,367	11,216
四半期純損失( )	105,474	62,966
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	105,474	62,966

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純損失( )	105,474	62,966
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37,450	78,851
退職給付に係る調整額	8,549	4,335
その他の包括利益合計	46,000	83,186
四半期包括利益	59,473	20,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	59,473	20,220

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形		1,428千円
支払手形		6,093千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。  
 なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	22,139千円	20,896千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	24,057	3	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	40,090	5	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			合計(千円)
	建設事業 (千円)	情報システム事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	
売上高				
外部顧客への売上高	2,904,154	666,096	69,838	3,640,090
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	2,904,154	666,096	69,838	3,640,090
セグメント利益又は セグメント損失( )	139,594	36,955	48,819	127,730

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			合計(千円)
	建設事業 (千円)	情報システム事業 (千円)	不動産賃貸事業 (千円)	
売上高				
外部顧客への売上高	2,975,467	475,843	49,936	3,501,248
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	2,975,467	475,843	49,936	3,501,248
セグメント利益又は セグメント損失( )	81,256	54,325	30,280	105,301

(注) セグメント利益又はセグメント損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額( )	131円54銭	78円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	105,474	62,966
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純損失金額( )(千円)	105,474	62,966
普通株式の期中平均株式数(千株)	801	801

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
- 2 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株に併合しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月14日

神田通信機株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北 澄 和 也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安 永 千 尋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神田通信機株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神田通信機株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。